

2回目 組織の成功循環

【成果を高める“関係性”の力について】

スポーツの世界では、「結果を出す」ことが私たち指導者の責任であり、誇りでもあります。

これまで培ってきたご経験の中には、「厳しさ」や「妥協しない姿勢」が成果に結びついた場面も多くあったことと思います。

しかし、時代とともに、選手たちの価値観や受け取り方も大きく変化しています。

「よかれと思って厳しく言ったことが、誤解され、選手が心を閉ざしてしまう」——そんな経験をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

これは、指導者としての意図が「対立」から始まってしまったことで、信頼関係が築かれる前に壁ができてしまった状態です。

このような状態では、選手の思考の質は「自己防衛型」になり、「できない理由」を探し、「言われたことしかしない」受け身の姿勢が強くなります。

結果として、新しい練習法や方針に対しても前向きな反応が得られず、チームの成果にも影響が出てしまうことがあります。

一方で、「**まずは対話から入る**」ことを意識すると、大きく流れが変わります。

最初から全面的に譲歩する必要はありません。ただ、選手に「この指導者は自分を理解しようとしてくれている」と感じさせるだけで、選手の受け止め方は変わっていきます。

そこから生まれるのは「信頼から始まる関係性」です。

信頼がある関係性では、選手の思考の質が「相互理解」や「主体的な協力」へと変化します。

指導者の意図や方針をしっかりと理解しようとし、「うまくいかない時は助け合う」関係性が生まれ、最終的にはチーム全体の成果も大きく向上していきます。

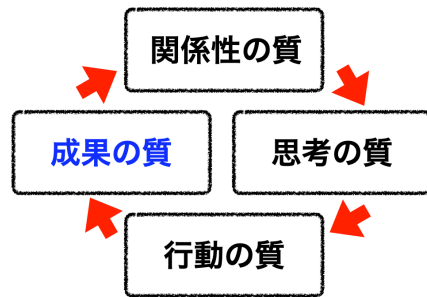
【まとめ：成果を生む「対話からのスタート」】

指導者としての誇りや情熱を失う必要はまったくありません。

むしろ、**今の時代に合わせた「関わり方」をほんの少し変えるだけで、これまで以上に選手たちの力を引き出すことができる**のです。

「厳しさ」や「情熱」に、「**信頼を築く対話**」という土台を加えることで、成果を高める“良い循環”をつくることができます。

ご自身のご経験に、この新たな視点を加えていただけたら嬉しく思います。



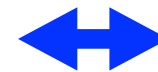
組織の成功循環

バッドサイクル

グッドサイクル

関係性の質

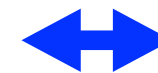
対立から入る
不信感



対話から入る
信頼感・相互尊重

思考の質

自己弁護・失敗回避
受動体質



相互理解・気づき
アイデア

行動の質

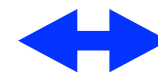
非協力的
チャレンジしない



協力的
チャレンジ・助け合い

成果の質

成果は悪くなる



成果が高まる